

②開発行為又は土地の開墾その他の土地の形質の変更(土石の採取又は鉱物の掘採を除く。)

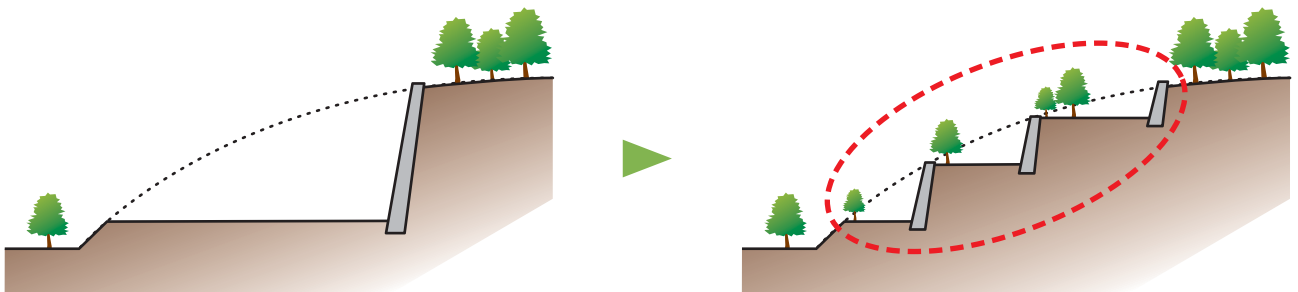
11 形態意匠

基準

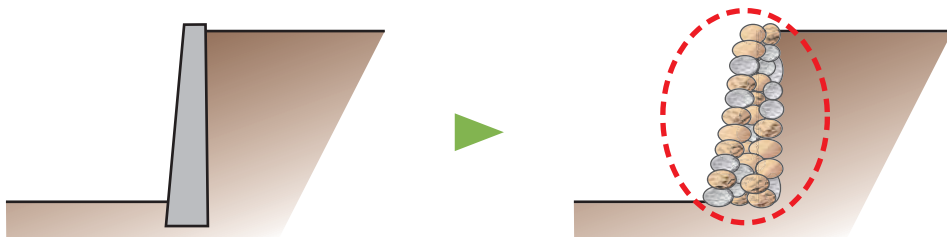
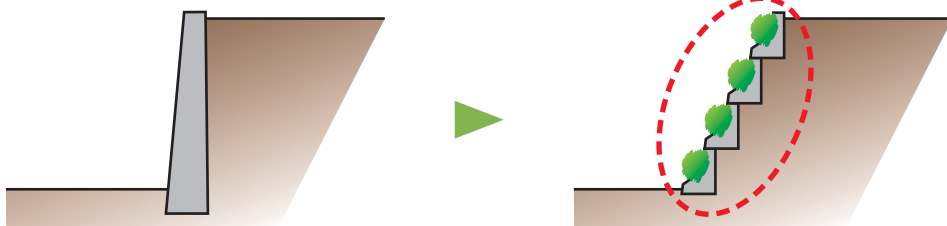
○できる限り現況の地形を活かし、長大なのり面又は擁壁が生じないようにすること。やむを得ず生じる場合は、のり面をゆるやかな勾配とするか、分割し、圧迫感を軽減するよう配慮すること。また、擁壁は石積みや緑化ブロック等により修景するよう配慮すること。

■具体的な配慮の例■

○長大な のり面や擁壁が生じないよう、現況の地形を活かした切土や盛土の小さな造成計画とする。



○のり面や擁壁は、緑化ブロックや石積みにより修景することで、圧迫感を軽減し、周辺景観と調和するよう配慮する。

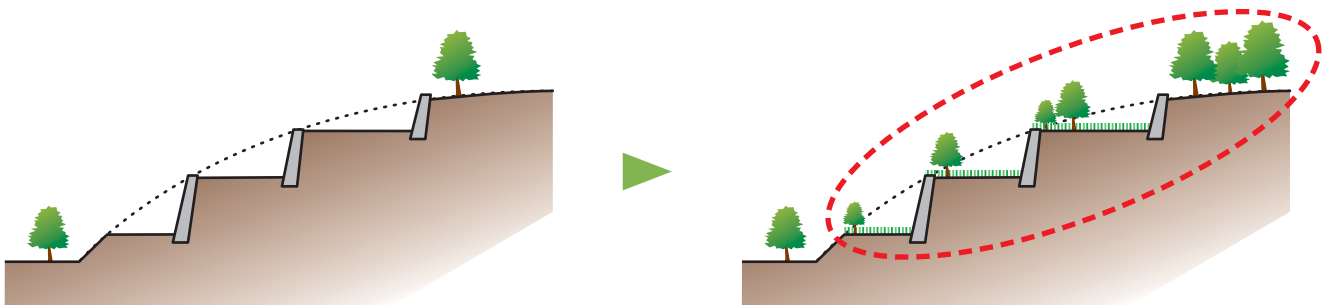


12 緑化

基準 ○のり面や敷地の外周等は、できる限り多くの部分を緑化すること。

■具体的な配慮の例■

○行為地内はできる限り多くの部分を緑化することで、周辺の景観との調和に配慮する。



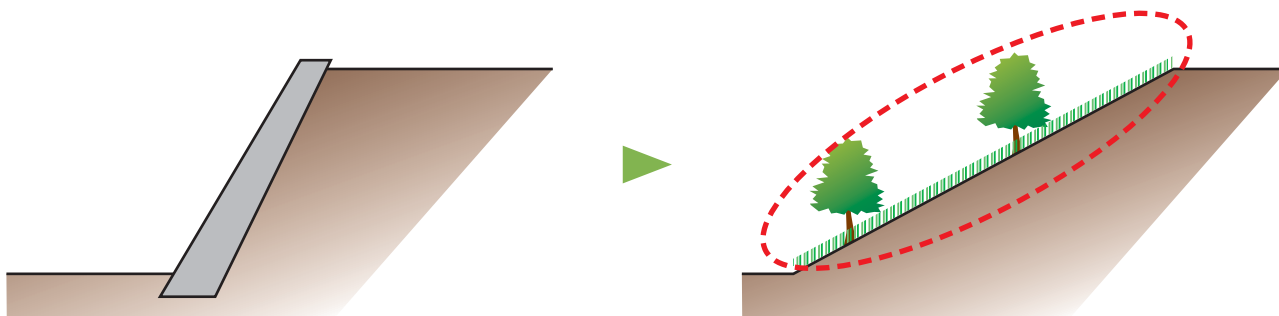
12-1 緑化

基準

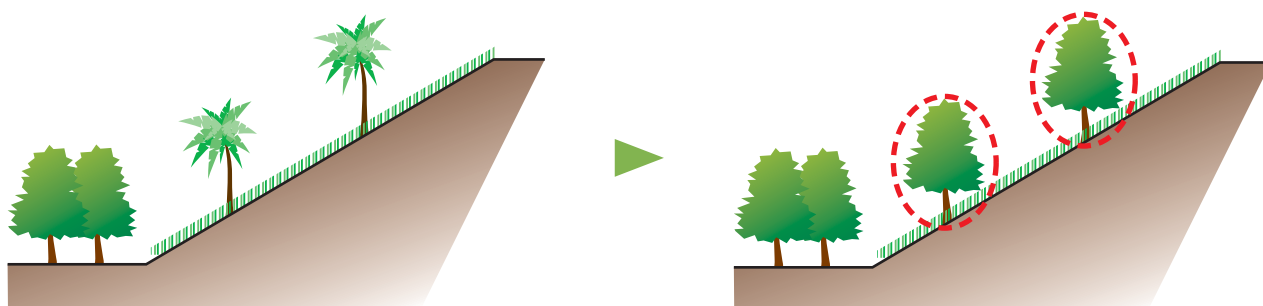
- のり面は、緑化のためにできる限り緩やかな勾配とし、周辺の植生と調和のとれた樹種により緑化すること。

■具体的な配慮の例■

- 垂直または急な擁壁は避け、緩やかなのり面とするなど、緑化しやすい造成計画とする。



- 緑化の際は、その地域に自生する樹種を用いて緑化することにより、植生の保護や周辺の景観との調和に配慮する。



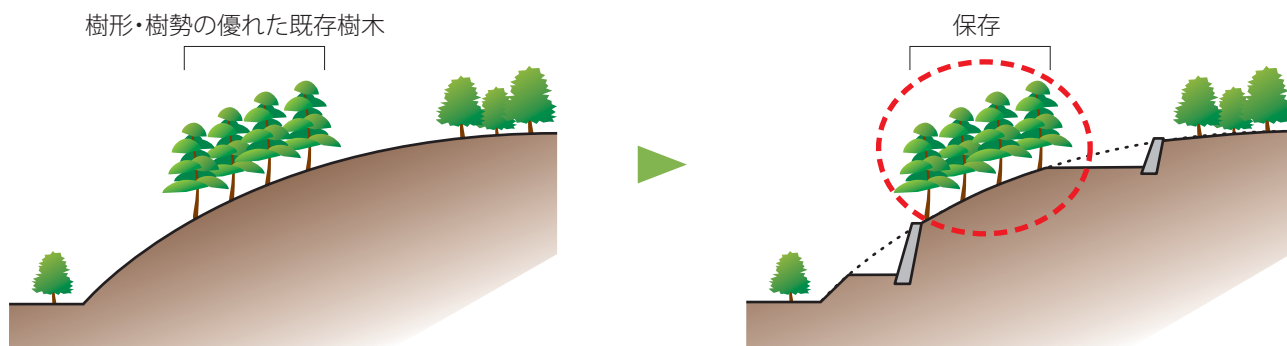
12-2 緑化

基準

・行為地にある樹木は、できる限り保存又は移植し、修景等に活かすこと。

■具体的な配慮の例■

○行為地内に樹形又は樹勢の優れた樹木がある場合、樹木を保存できるよう造成計画を工夫する。



○やむを得ず、樹形又は樹勢の優れた樹木をそのまま保存できない場合は、移植により修景に活かせるよう配慮する。

